

第2WG 評価コメント

評価者のコメント

事業番号2-56 モデル事業（安心ジャパン・プロジェクト）

そもそも経産省が単独でやるべき事業ではないのではないか。規制 / 既存の構図など全体像の中で実現の道が見えない。

まず、混合診療等の規制の緩和による対応で十分に民間参入が期待できる。品質基準や標準約款については、先行企業から有料で買ってよい。あるいは、特区をつくり、そこに競争的公募で実施企業を募り補助金を出す代わりに情報ノウハウを受けてよい。

国による人件費補助の意義が認め難い。必要な「連携」を構築するために各関連主体がネットワークに参加し、議論を尽くすことで足りるのではないか。

今後、医療・介護サービス等の産業に対するニーズは増大していくものであり、法的整備等の環境整備を行うことで必然的に産業として成り立っていくのではないか。

国が取り組む必要はありません。

意義を認めない。

何を指すのか、何をしたいのかよくわからない。国が最優先で取り組む課題とは言えない。厚生労働省の規制撤廃が先。もう一度よく検討してほしい。

サービスの品質の標準化を何のためにするのか不明。かえって、民間の自由な活動を妨げることにならないのか。経産省には「国際市場獲得」できるような強い産業に医療を育てるにはどうしたらいいのか考えてもらいたい。

厚生労働省に対し強く規制等の改正を求めるべき。

現行制度の問題点(厚生労働省所管の諸制度)に関するもの見直しから始めるべき。事業の意味がよくわからない。

同様の業務が伸びないのは 法整備と 各事業者のコーディネートの問題。連携は国費を投入しなくても可能である。

どうせやるなら医療・介護の周辺ビジネスだけでなく医療・介護の本丸で医療法人でない株式会社参入や民間健康保険の導入等を厚生労働省と戦って実現してほしい。

従来の縦割行政の中で厚労省への切り込みは入れていただきたいと思っている。それが経産省の本事業でできるかどうかこれからを見受けねばならないが、現実をみれば、まずは動き出さなければ日本の健康医療が適切にアロケーションされない状態にあるので認めていきたい。この予算額が適当かはこの時間の範囲では判断できなかったことを付言する。

WGの評価結果

モデル事業 (安心ジャパン・プロジェクト)

廃止

(廃止 9名 自治体/民間 0名 予算計上見送り 3名

予算要求縮減 1名: a.半額 0名 b.1/3程度を縮減 1 c.その他 0名

予算要求通り 1名)

とりまとめコメント

第2WGとして廃止を求めたい。本事業の意味がよくわからないという意見が大変多い。こうした事業の推進には、法整備と各事業者とのコーディネートが課題であり、規制緩和の問題を先にやるのが本筋ではないか。厚生労働省の諸制度について、連携を図りながら取り組むべき。どういう姿になるかが見えないまま32億円を投じて国がやる事業ではない。